

実例紹介

-「Hydro-Jet RD 工法」の場合 -
第21回 国土技術開発賞 優秀賞

応募企業のシーズ

- ・切断技術
- ・削孔技術

合致

阪神高速のニーズ

- ・構造物の高齢化
- ・お客さま影響を最小限とする大規模更新

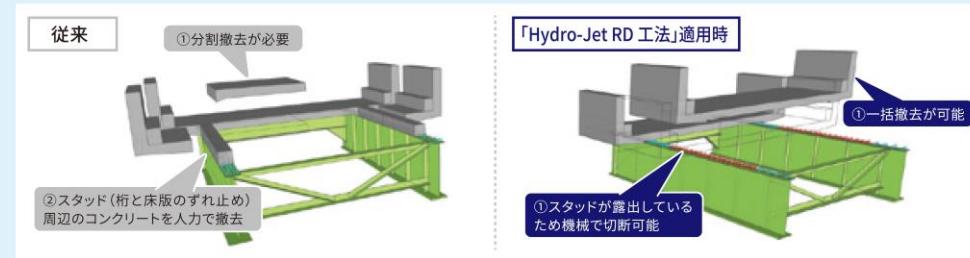
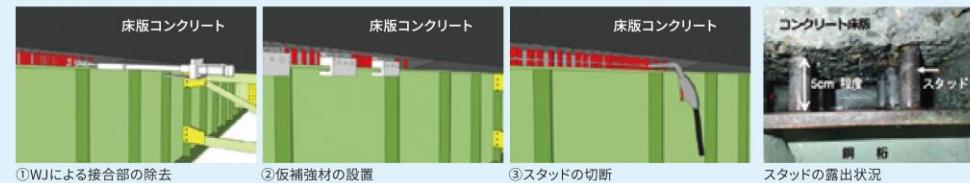
共同研究内容

応募企業の持つウォータージェット(WJ)技術を、お客さま影響を最小限とした床版の撤去技術に応用

技術の概要

開発した工法は、供用下においてあらかじめ桁と床版の接合部のコンクリートをWJで取り除くことにより、通行止め工事期間を短縮させることができます。共同研究の中では、狭陰部に適用できるWJ装置、仮補強材等の開発を行いました(写真)。

「Hydro-Jet RD 工法」



研究開発の様子



現場への適用



コミュニケーション型共同研究 お問い合わせ先

2021.4版

(一財) 阪神高速先進技術研究所 調査研究部

TEL : 06-6244-6060 (代表)

E-Mail : kaihatu@hit.or.jp



～阪神高速の革新的オープンイノベーション～ コミュニケーション型 共同研究

<ご案内>



「コミュニケーション型共同研究」ここがポイント

コミュニケーション型共同研究では阪神高速グループのニーズ(大規模修繕・更新、長寿命化、減災、安全対策、ICT、IoT、AIビッグデータ、ITS、異分野・業種融合等)について、皆さまがお持ちの幅広いシーズ(技術・材料・工法)を募集しています。従来の新技術募集や技術開発では解決することが出来なかった課題に対して、相互にコミュニケーションをとりながら新たな価値を創造しませんか。応募していただいたシーズと阪神高速グループのニーズのマッチングを模索し、試験施工や共同研究による技術開発に結びつけたいと考えています。



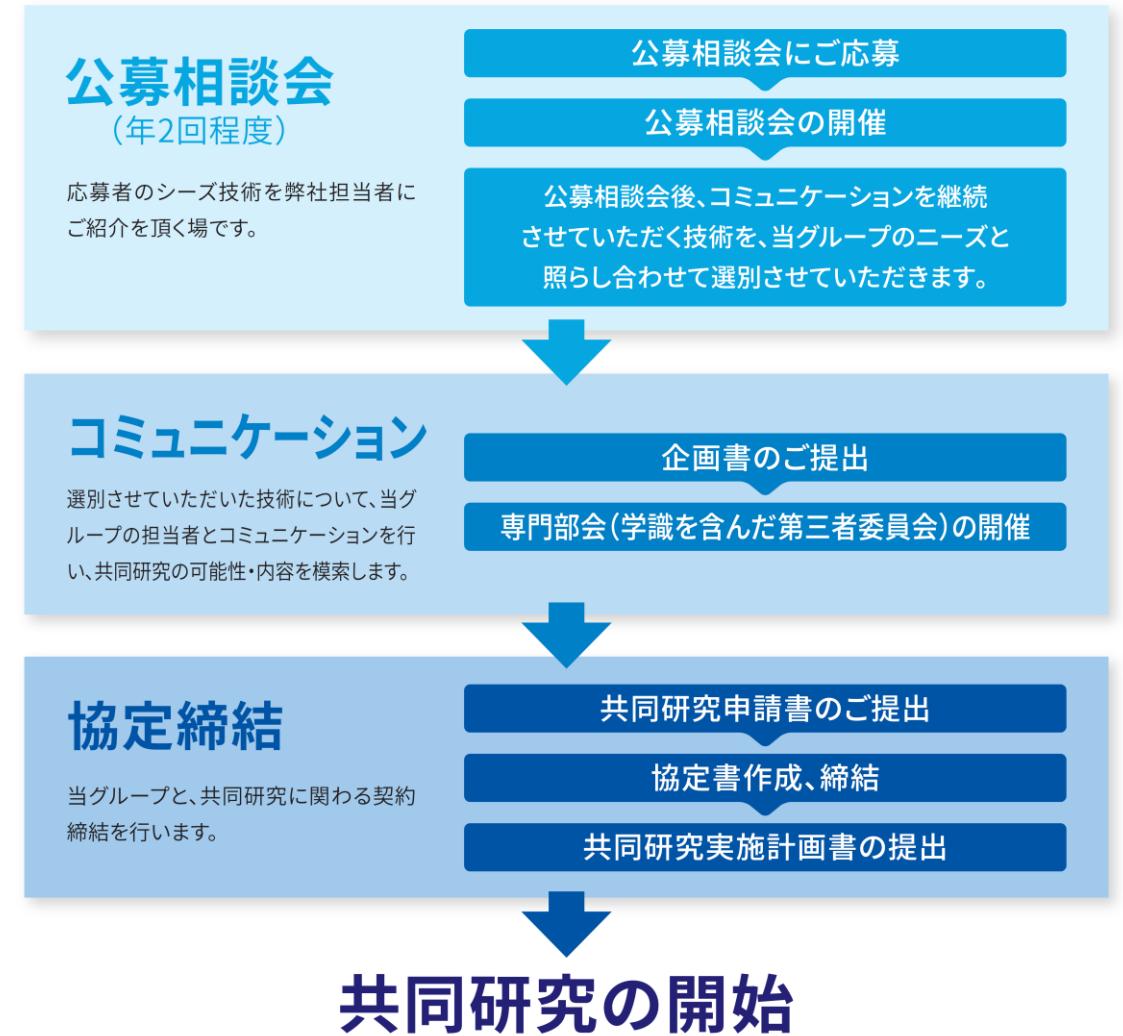
ポイント 1 一方通行になりがちであった共同研究のテーマをコミュニケーションによって、相互の意見をふまえて技術開発を行うことができます。

ポイント 2 何に使っていいかわからない技術、使う方法が思いつかない技術について、阪神高速グループと一緒に考えることができます。

ポイント 3 共同研究によって開発した技術を、阪神高速のフィールドで試験施工することができ、実用的な研究開発ができます。

※業務や工事の受注時に、該当する技術の共同研究成果を有していることで加点される場合があります。

コミュニケーション型共同研究の流れ



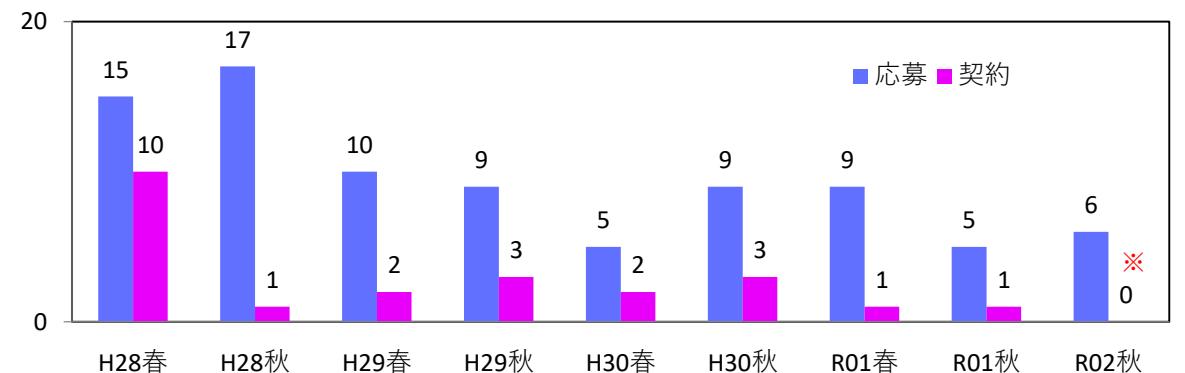
※応募していただいた技術の内容により、阪神高速道路(株)だけではなく、当社グループ会社及び(一財)阪神高速先進技術研究所との共同研究になる場合があります。

FAQ

Q1. 阪神高速の具体的なニーズはありますか? A1. コミュニケーション型共同研究では阪神高速の具体的なニーズは提示せず、貴社がお持ちのシーズをご応募していただいた後のコミュニケーションで阪神高速のニーズとのマッチングをはかる方式です。阪神高速のビジョンなどニーズの参考となる資料は下記のリンクからご参照ください。

Q2. 共同研究にかかる費用の負担はどうなりますか? A2. 基本的には御社と弊社の折半です。共同研究によって創出される特許等の知財の比率と比例した費用負担となります。ただし、知財等を得ない部分に関する費用負担については応相談です。契約書締結前に協議させていただきます。

過去5年間の公募相談会応募実績・契約件数



※現在、共同研究契約締結に向けたコミュニケーションを継続中です。